2018 / April

担い手通信 4

JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

サイズ混載で新規格
調製作業を省力化
野菜流通カット協

カット野菜業者やJA全農などでつくる野菜流通カット協議会は、加工・業務用野菜の新たな出荷形態をまとめました。一つの段ボール箱やコンテナに、異なるサイズの野菜を詰める「混み規格」出荷が柱です。外観を気にし過ぎずに取引できる強みを踏まえ、産地での仕分けなどの作業を省力化し、労力を生産拡大に振り向けてもらう。3月中に正式発表し、産地への普及に乗り出します。

業務・加工用の取り扱いが多いキュウリ、白ネギ、トマト、キャベツ、レタス、ホウレンソウ、タマネギ、ニンジン、ダイコン、ハクサイの10品目が対象。近年の業務・加工用野菜の需要増加に対応するため、産地での効率的な出荷を促す狙いです。

サラダ需要がメインのキュウリでは、大き過ぎたり品質が極端に悪かったりするものを除き、ひとまとめにして出荷することを提案。キャベツでは5～9玉級の大玉を中心に、サイズに関係なくコンテナに詰めて出荷することを求めます。

白ネギでは、市場出荷向けのように茎を切らないで調製する必要はないと指摘。2、3本まとめて茎の先端と葉を切りそろえる「両端切り」で、可食部分だけを仕入れます。また、タマネギとニンジンは春先から夏にかけて業務筋が求める太物が少なくなるため、産地に太物の生産で協力を呼び掛けます。

業務・加工用野菜として提案する出荷形態

品目	出荷形態
キュウリ	A・B品のM・S級を計100本、10kgコンテナに詰める
キャベツ	5～9玉級の大玉が基本。10、15kgの段ボールか、300～350kg入りのコンテナに詰める
レタス	結球レタスは1玉400g以上の大玉、リーフ系は1株270g以上
白ネギ	葉と茎の両端をカットし、軟白部が25cm以上
ダイコン	L、2L級を用いる。葉と先端の両端をカットしたものも可

協議会によると、提示した出荷形態は既に一部の契約取引で産地が取り入れています。木村幸雄会長は「産地としても規格と出荷形態の簡素化で、調製作業の効率が良くなり、栽培面積の維持、拡大につながる」と話し、普及に意欲をみせています。

今が旬 この言葉

米食味ランキング

日本穀物検定協会が実施する「米食味ランキング」は官能評価で「外観」「香り」「味」など6項目を採点し、総合点で上から「特A」「A」など5段階に格付けします。品種と栽培方法、天候が大きく左右します。2017年産の出品数は過去10年で最多となりました。三重県では「伊賀米コシヒカリ」が「特A」を取得しています。

営農技術 Pick up

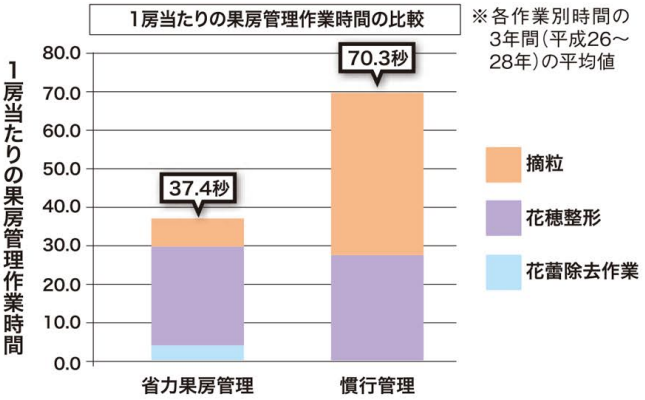
このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

粒ブドウ 果房管理の作業時間を47％省力化

三重県農業研究所は、「シャインマスカット」を房ではなく粒で販売する「粒ブドウ」向けの省力果房管理方法を発表しました。房売り用の種なしブドウの栽培では、房の形を整える花穂（かすい）の整形や摘粒作業など、果房管理に作業時間がかかり、省力化が課題です。

「粒ブドウ」販売の場合、房作りが不要で、新梢の葉の枚数が7～8枚になった時に花蕾（からい）除去器（商品名：テキライグシ）を使い、花蕾を減らすことで省力化が可能です。慣行管理と1房当たりの作業時間を比較すると、省力果房管理ではテキライグシを使った作業が加わりますが、全体として作業時間が短縮（図）されます。果房管理に要する作業時間は慣行管理が1房あたり70・3秒に対し、省力果房管理では37・4秒と約47％の省力化が可能です。

この研究成果は「シャインマスカット」以外の品種でも、果粒販売を目指した省力栽培に適用できます。



お問い合わせ先　三重県農業研究所　伊賀農業研究室　☎0595-37-0211

県内NEWS

（日本農業新聞より）

■ JA一志東部

一年間の総仕上げ 育てた野菜 ピザに

JA一志東部は2月下旬、松阪市立豊地小学校の2年生27人と、野菜たっぷりの「笑顔のピザ」を作った。「野菜嫌いをなくそうプロジェクト」の一環。2017年5月から「ベジファンスクール」に取り組み、学校敷地内で野菜を育ててきた。この日は授業の総仕上げとして、栽培した野菜を使った調理を、JA職員が指導した。「笑顔のピザ」は生地の上に、野菜をトッピングして顔を作ったもの。7班に分かれ、ブロッコリーを髪、ナバナを口、ミニトマトを鼻に見立てるなど、それぞれ班で話し合いながら個性あふれる7通りの「笑顔」が出来上がった。（2018/3/8 ワイド2東海）

■ 鳥羽市

3年後の再会約束「女の階段」全国集会

三重県鳥羽市で開かれた第16回日本農業新聞「女の階段」愛読者の会全国集会は3月6日、120人の参加者が2日間の議論と交流を経て、閉幕した。「現場の声を反映させた地域農業の方針作りに積極的に参画しよう」との集会宣言を採択。次回は2021年、広島県での開催を決め、「女性農業者の思いを書き続け、仲間づくりに励もう」と確認した。分科会報告では六つのテーマごとに発表。「どうする農業と家の継承」では、継承者がいない中で「IターンやUターンなど、第三者の若者に農地を貸すことも一つの手だ」といった意見も出た。（2018/3/7 社会）

■ JA三重南紀

タイかんきつ輸出合同検査視察 JA三重南紀統一選果場

三重県御浜町のJA三重南紀統一選果場で3月6日、タイへのかんきつ輸出で検疫条件の一つとなっている合同検査が行われ、鈴木英敬知事が視察に訪れた。現在、タイへ輸出しているのは三重県と静岡県だけ。鈴木知事は「マーケットを先行して押さえるには量を増やさないといけない。そのためにも輸出検疫の負担軽減を農水省に働き掛けたい」と力を込めた。タイ農業省の植物防疫検査官と名古屋植物防疫所の担当者が合同で、「せとか」やデコポンのサンプルを一つずつ手に取って病気の有無を検査した。（2018/3/7 ワイド1東海）

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

農業を営むすべての方に

農業経営資金

◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
◆その他農業経営に必要な資金

実質保証料 0円

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度（3年間）と
当JA金利引き下げ（2年間）措置の対象となります。

利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

《お借入金利》変動金利 年1％ － 《JAバンク利子補給・金利引き下げ》 年0.8％ ＝ 実質 年0.2％（5年間）

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合せください。http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/
平成30年4月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2％を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

《金利情報》 平成30年3月19日現在

農業経営資金
変動金利 年1.00％
固定金利 年1.50～2.00％
※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

スーパーS資金
年1.5％（変動金利）

JAバンク 三重県下JA／JA三重信連